

5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2 3 4 5 6 7 8 9 70 1 2 3 4 5

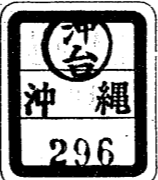
電子複写不可

複写禁止

昭和三十三年三月二十二日

沖縄作戦戦車連隊資料

元 陸軍大尉 田川昇



防衛研修所戦史室

本部
 第一中隊
 第二中隊
 第三中隊
 第四中隊
 砲兵中隊
 通信中隊

| | | | | | | | | |
|--------|---------|----------|-----------|----------|------------|----------|----------|-----|
| MG | MG | 90A | TA | MG | MTK | MTK | LTK | MTK |
| (六) | (二) | (四) | (一) | (五) | | (七) | (七) | (三) |
| | | | | | 右 | | | |
| | | MG | MG | | | LTK | LTK | |
| | | (二) | (六) | | | (一) | (一) | |
| (長) | (長) | (長) | (長) | (長) | 在宮古島第一中隊團長 | (長) | (指揮官) | (長) |
| 大尉 林 潔 | 少尉 寺田 記 | 大尉 大越 重信 | 大尉 長谷川 春雄 | 大尉 山口 三郎 | 大尉 矢代 晋 | 大尉 平野 則之 | 大尉 高橋 幸雄 | |
| | | | | | | | | |

大尉 渡辺 見家

及心救正中隊一小隊、宮古島二在!

一編成

隊長

陸軍中佐

村上正

態勢

敵硫黄島未攻時中頭郡中城相據待機位置

郡宮城附近ニ移駐シ待機位置捕集作業中

一部(教育隊長田川大尉以下九名各隊宜野湾待機位置撤収人員三名)中頭郡宜野湾村ニ在リ高南上原監視隊(長高永曹長)九名南上原ニ在リ。

三戰斗経過ノ概要

三月二十日 早朝ヨリ敵艦載機ニ。未襲ハ空襲目標飛行場港湾設備ノ外軍事施設ニ指向セラレ比日ヨリ敵我が

陣地設備ノ破壊ヲ企図セルモ、如ク十月十日空襲以來敵機ノ空襲時、如キ單ナル飛行場及び港湾設備ノミヲ目標ニアラス。

●三月二十四日 南西地区特有ノ好天ニシテ早朝ヨリ南上原敵機ノ大編隊群ハ本島南部ニ未襲ス而シテ正午稍々前敵艦隊本島東南海上ニ出現セルトノ報ニ接シ特兵ニ異状ナルヲ感ツテ入リ。亦三十三号特兵ニ申号敵機下合セラル末ニハテ時遂ニ未リ未

ニ来ル敵艦(C4 D5)ハ湊川地帯附近ニ艦砲射

セシテ轟々ト爆音ハ

！ 我隊に敵の機銃

高千穂川ヲ利用シ敵軍隊ヲ主力ニ復歸セシ

備ハ強化促進ヲ圖ル (部隊配備要圖第一ノ如シ)

●三月二十五日敵慶良間列島ニ上陸空龍巻及心機砲射撃ハ

愈々熾烈ニナリツキアリ。

●三月二十六日我隊整備中隊ノ工場ヲ目標トシテ空爆ヲ行ヒ此

ノ日部隊最初ノ戦死者特技一(中尉木村秀次)兵一(兵長

松本大八)ヲ出セリ。

●三月三十日敵神山島ニ上陸軍司令部ニ基キ砲兵中隊ヲ遣

動砲兵二群ヲ以テ陸海軍重砲ト共ニ本夜神山島ニ対シ

推進斬上隊上策應ニテ敵重砲陣地ノ破壊ニ任ズ。

長大尉 大越 重信

第一群長 根岸中尉 平安山、上尉近ニ進本敵艦艇ヲ

射撃ス。

第二群長 秋本中尉 那覇附近ヨリ神山島ノ射撃

相等ノ戦果ヲ収メタルヲ確認スルヲ得ズ。

○○○主力ヲ以テ北中飛行場及周辺陣地ヲ

那覇・小笠原村附近ヲ目標トス。

5. C1.0
D50
T40
T400

↓ B14
C30
D107
T500
(シキ物ヲ除ク)

ヲ望見ス。

ハハ。舟艇ハ上陸準備シテハハハ北飛行場一北谷ノ間。

上陸ヲ開始ス 上陸兵力 7D 96D MID

●四月二日 27D 上陸ス。

●四月三日 77D 上陸ス。ニハハハ頃晋天間東西ノ線ヲ進出ス。

●四月六日 敵第一線我が陣地ニ接觸ス。部隊ヨリ南上原ニ達

ニアリシ當永監視隊ハ歩兵部隊ト協力シ敵ハ戦車三輛ヲ
擄生セシメ敵使用地圖等有力ナシ情報事項ヲ獲得ス。

●四月十日 軍第一回ノ總攻撃ヲ実施ス。戦隊ハ独混四由旅団

ノ知念半島守備部隊ノ一部ヲ伴ヒ指揮シテ那原附近ヲ守
備ニ任ズ。

●自~~四月~~四月十三日至四月三十一日 機動砲兵中隊ヲ以テ隨時那原

ノ附近ニ機動シ敵後方部隊ヲ擾乱射撃ヲ実施ス。

自里飛行場ノ戦斗ニ依リ一小隊協同セテ陽動ス。

隊長 山手中尉
副隊長 鷗澤見習士官

本年第三回總攻要ニ當リ我隊ハ第三師團ニ配屬
ラレ当師團左突進隊ニ協力引續中突進隊ニ協カスベキ
命令ニ基キ五月三日旭首里北方石嶺附近ノ出發位置ニ
進入五月四日・〇三・三〇同本營位置發進大々的發進ヲ
利用シ主力ヲ以テ首里飛行場ヨリ(一四六北側)一部ヲ以
テ146高地南側ヨリ前田南方ノ高地及幸地方南ニ攻要前

進シ第一戰隊(中隊及少隊)工兵ニ分隊ヲ以テ
ハ高地ヲ奪取シ第二戰隊ハ第一戰隊ノ右後方ヨリ前進
前田南方ノ敵ヲ攻要シハ高地奪取ト同時中突進隊棚敷及
幸地北側高地ノ攻要ニ協カス。第一戰隊ハ此自ノ戦果ニハ高地ヲ
突破シ第一戰隊ハ中突進隊ニ協カセシガ左突進隊方面攻要甚
セクナラズ第一戰隊ハ損耗甚シキモ中突進隊ハ予定ノ如ク進
南度ノ攻要準備ノ多一旦首里飛行場南側集
ラ準備ハ本攻要ニ於テ我隊ノ損耗亦少ク

約三〇。(要因事三)

○四三〇ヨリ南度、攻撃ヲ敢行シ昨日ノ攻撃ニ
前田南側ノ敵陣地ヲ放棄シ大ノ戦果ヲ收ム。

●五月六日、軍命令ニ基キ、聯隊ハ石嶺東西ノ線ニ陣地ヲ築
シ、戦路持久態勢ヲ強化ス。石嶺附近ハ既設陣地ナク、
間ヲ利用シ、熾烈ナル砲撃ヲ間ヲ利用シ、哨臺陣地ヲ構築シ
中隊長以下同陣地ニシテ(陣地既備要因事三)

●自五月七日、至五月十六日、連日砲爆東ハ熾烈ヲ極メ、丘度畑
地ハ悉ク野ト化シ、人血ト弾片ニテ山色アラタマリ変シアル。

九日ヨリ、降雨タメ、陣地ニ在リシ特兵ハ悉ク泥濘ト濁水ニ
連日ヨリ空腹ト寒氣ハ容赦ナク、腹心来ルル共任務ハ重
且大ナリ、我ニ度目、陣地ヲ放棄セバ、軍司令部ヲ五切事ナ
シ、而シテ司令部ハ一撃ニ敵手ニ陥ルベキハ明白ナリ。同地ニ

ニ五軒ニシテ他ノ配備部隊ニ一兵ニ至モ同地

ニ、中隊長以下特兵ハ特ニ此ノ時ノ重

上威敵奉公ノ意氣燃エ步兵第三十三聯隊

直屬セラレ部隊ノ強化ヲ圖ル我々步兵中隊及連射

ハ部隊ハ進出シ来レ敵ハ戦車ヲ悉ク擱座炎上セシメツニアリテ

陣前ニ近迫ヲ許シアラズ擱座セモハ夜間エ兵破壊砲ヲ以

テ之ヲ完全ニ破壊ス連日十〇〇ノ戦車兵員百〇〇ノ戦果ヲ

ニケアリ此ノ間ノ部隊損傷ハ敵爆薬戦車ニ依リ連日若干

名ヲホセリ。

●五月十七日 ヲ四・三〇突然監視兵ノ位置ヨリ銃声起ル敵兵ハ

我々中央陣地ニ侵襲シ来レ我々監視兵ノ應戰射撃ナリ。

敵ハ自動小銃一枚肉銃一擧擲ヲ以テ遂次肉迫シ来レ。

遂ニ聯隊本部台ニ進出ス敵兵約五〇。聯隊ハ全方ヲ以テ

東西ヨリ此ノ敵ヲ夾撃シ一擧ニ東滅セシトセリ。然レ其最

ニ隊タル山口隊モ同様数日ノ敵ハ攻撃ヲ受ケアリ

シテ右翼ヨリ步兵中隊、工兵小隊ヲ以テテ

整備中隊ヲ以テテ南ヨリ攻撃シ

斗入り彼我ノ死体果々トテ出ナシ遂
致敵ハ敗退セリ。本戦斗ニ於テ敵ニアタケル

ミヨ。中遣撃死体ニモ。機内銃自動小銃多数
函獲我亦損傷又ナシモアリ。

●自五月十八日。至五月二十三日特編第一大隊(長鈴木少
佐)独機一小隊。独連一小隊配属セラル。當時聯隊戦力
1/4ニ消耗シアリ。聯隊配属(要員第四如シ)
右第一連中隊ハ隊長以下全員玉碎部隊ハ兵力僅少ト

ナリテラ以テ配属部隊注入シ敵ト対峙シ四。米一三。米向
ニ於テ連日手榴弾戦ヲ展開ス。尚残存九。野砲一門及テ
左翼方面ニ進出スル敵ハ戦車ヲ攔在炎上セシメ依然トシテ
戦車近迫ヲ阻止シアリ。夜間ヲ利用シ部隊第一連附近
敵人員兵器ノ殺傷破壊ノ目的ヲ以テテ斬込隊ヲ侵入セ

多クノ戦果ヲアケル。戦果人員殺傷ニモ。
A 破壊炎上ニ。破壊炎上セシメテ周圍破壊セシメ
積壊碎ニ
岳バズーガー機内銃五

新ニ新号作戰ヲ開始スル目的ヲ以テ本

戦進スルハキ命令ヲ受テ二十三日辰石嶺附近ノ

偵ヲ特編隊ニ大隊ニ委譲シ長堂ニ向ヒ前進ス。連日

降雨ニ依リ泥濘ト化セザレ道ハ一ツトニテナク砲爆痕

ト殘虚ト化シタ首里前内ヲ通過シ連日ノ戦斗ノ疲勞ト

空腹ニヨリ將兵一同絶大志努力ヲ要セリ。

戦斗員 戦隊長以下 一三八名ナリ。首里城趾ニ於テ联

隊長ハ迫撃砲ノ破片ニヨリ大腿部ニ重傷ヲ負ヒ出血多量

ニテ二十七日未明東向平病院ニ搬送中戦死ヲトゲタリ部隊長
戦死後高橋大尉部隊長代理トシテ部隊ヲ指揮ス。

●五月二十八日ロロニロ第六十二師団、第六十五旅団命令ニヨ

リ神里ニ戦進スルハキ命令ヲ受テ四三〇長堂ニ突進

神里着當時敵ハ要隘第五ノ如シ神里東北高地ヲ占

ムニアリ戦隊ハニケ中隊ヲ編成シ(第六ノ如ク)配備ニシテ

攻ハ空輸ニ依ル第一線ハ軍需品ヲ供給ヲ行

ハコラ以テ攻真ニ悉ル。

日聯隊ハ第一線前進部隊ト大成

前進ヲ拒止シ軍ノ收容ニ任ズ五月三十日夜

ニ配備ノ他部隊ハ米須・摩又仁地邑ニ向ヒ前進ス。

六月一日敵第一中隊及ハ本部予備陣地内ニ浸透シ来リ。

我が方ハ戦力ノ大部ヲ損耗セルモ同日夜神里南方台ニ兵

カヲ集結整備シ同地附近ニテ敵ノ前進ヲ阻止スベク企圖ス。

六月二日敵ハ両翼ヨリ包圍態勢ヲ整ヘ我が予備陣地内ニ

侵入シ来ル比ノ日ノ戦斗ニテ聯隊ハ殆ド壊滅的打撃ヲ受ケ

米須ニ轉進スル兵力特戦以下三十一名ナリ。

六月四日病者用衣ニヨリ入院患者ノ中、重傷患者ハ自決ニ輕

傷患者ハ所属部隊ヲ求メテ集結シ来ル。

六月八日輕傷患者ハ殆ド全員戦斗員トシテ戦斗ニ参加ス。

戰軍隊ハ此所ニ新ニ第一十九飛行場設置隊ノ既屬ヲ受ケ

共ニ独立歩兵第一大隊ニ編入セラレ第三中隊(長矢代

め)長 田川大尉)ノニケ中隊ヲ編成シ主カク

テ小渡海岸及真米平(南側台)ノ戰

敵、当將全面的ニ攻勢ヲ執リ独

方面ハ遊攻圧迫セラルル状態ニテ、勇ニ奮

戦ハ随所ニ近接戦ヲ行ヒ激烈ナル砲爆裏ヲ加フルニ至

ル歩兵ノ兵力ハ損耗シ砲兵後方部隊ヲ以テ勇ニ奮ヲ準備

セシムルガ如キ状況ナリ。火器就中、自動火器殆ト皆無近

キ状況ニシテ彈藥糧秣亦缺乏ニ頻シル状態ナリ。然レトモ

僅久ノ大義ニ生キカタルハ肉弾ヲ以テ最後の決戦ヲ断行

スルノ時刻迫ル所末慮ハ憂慮色ハナク明快ナル心境ニアリ。

●三月九日—三月十七日 敵ノ攻勢ハ愈々極成ラ振ヒ空陸砲ヨリス

ル砲爆裏ハ減少ナル南部地区ニ集中サレ砲爆煙霧多トシテタ

メニ天日暗キ感アリ右翼方面ハ眩混第四夜団ハ遊ニ敵ノ

極攻ヲ支ヘ切レズ圧迫サレ左翼勇ニ十四夜団ハ連日必死奮

戦ヲ繼續シアルモ遊攻陣地内ニ侵入サレアリ。

●第四夜団ハ勇ニ十四夜団ノ轄下ヲ脱シ新ニ戦車隊ヲ

△大尉 六十三夜団ノ轄下ニ入ル。

△六五五ノ遊ニ敵手ニ陥リ其業平

真米平ニ向ヒ接近中ニシテ、ロミワヲ第三

高地ノ夜襲奪回ヲ命ゼラレ、第四中隊ハ真米平

ノ方北ニ霧道陣地占領ヲ命ゼラル、依ツテ、戦車隊長ノトリタル初

着左記ノ如シ。

左記

戦車隊 (長 矢代大尉)

第三中隊 (長 天代大尉) 十八日未明米須陣地奪回

△六五五高地ヲ夜襲奪回

第四中隊 (長 田川大尉) 真米平東方地区ニ霧道ニ

陣地ヲ占領

後方據拠 (長 黒崎大尉) 摩文仁東南方自然洞窟

占領隊。ニ後方據拠ヲ占領シ、部隊ノ人員兵

各陣薬糧秣ノ輸送捕給ニ任ズルシ。

第三中隊ハ十八日未明摩文仁ニ向ヒ前進シ、△六五五高地西方

一帯ノ地兵ニ至リ準備中命令ニ依リ、△一〇八八高地ニ霧道ニ貫

谷部隊長指揮ニ入リ、十九日ロミワ、△一〇八八高地ニ

到着セルモ、当時同本部ハ敵ノ攻撃ヲ受ケツ、アリ即チ直チニ

死斗態勢ヲ以テ攻撃セリ。第四中隊ハ天明ト同時ニ

地区ニ向ヒ前進ス、一三〇〇、第四中隊ハ摩文仁

ニテラ占領ス、クノ命ゼレ、一八〇〇。行動開始

前進ス、後方據兵ハ新命ノ地兵ニ十八日

前進ノ任務ヲ遂行シツアリ。

十九日既ニ敵ハ一路摩文仁ニ向テ前進ス。正午頃敵ハ茅
四中队正面ニ攻撃シ来リ午後△九六高地ヲ奪取ス。

茅四中队ハ既ニ包围圈中ニアリ茅三中队ハ昨夜ニ回ニ直リ△
一〇八八高地ニ夜襲ヲ敢行セシモ但シ成功セズ相等ノ戦果ヲ收

メタリ。

六月二十日 敵ノ摩文仁軍司令部方面ニ対スル攻撃ハ愈々

急激ヲ極ム情報ニヨリバ茅三中队ハ殆ド全滅ニ類シアリ茅

四中队ハ△八六高地ニ転進ヲ命ゼラレ茅二中队(中央小队)ハ

戦害絶ノ攻撃ニヨリ全員玉碎シ茅一隊ハ前方ニ五。

米ニおセル監視哨モ既ニ連絡トレス全員戦死セル状況ナリ。

二〇〇〇残存兵力ヲ以テ△八六高地ヲ占領シ部隊ハ切込ニ

大砲スレヤ命ヲ受テアリト即チ茅四中队ハ残存セル人員

ニ海岸ニ集結シ切込ヲ準備ス、後方據兵ハ其

軍隊長ト連絡ヲ既ニトシタル状態ニ